

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記4

国立市立国立第七小学校

平成29年2月1日 NO.88 (388)



クビキリギス

花ちゃん 「あれあれ？真冬なのにバッタがいる？不思議ですね。なんていう名前なの。」

モンタ博士 「このバッタはね、見守り会の横戸さん（甲州街道の歩道橋の所にいつも立っている人です。昨年さくねんの秋あき、10数年にわたる児童登校時の安全見守りの功績こうせきに対して市民表彰しみんひょうじょうされた初代見守り会会長しよだいみまも かいかいちょうさんです。）が見つけてくれたものです。冬なのにどうしてバッタがいるのか不思議ふしぎに思って、モンタ博士にとどけてくれたんだよ。」

オー君 「このバッタはね、クビキリギスという名前のバッタなんだ。」

モンタ博士 「ほほー。さすがはオー君。よく知ってるね。感心かんしん感心かんしんだね。それでは、今日は、オー君にいろいろと教えてもらうことにしようね。」

オー君 「まかせておくれよ。ぼくは、バッタについては、ちょいとくわしいのさ。」

花ちゃん 「へえー！すごいね。かっこいいね。よろしくお願いします。」

オー君 「まず、バッタといってもいろいろいるんだけど、こいつはキリギリスの仲間なかまなんだよ。冬ふゆでも成虫せいちゆうでいるのは、こいつとツチイナゴくらいだね。」

花ちゃん 「キリギリスの仲間なかま？どういうことですか。」

オー君 「バッタは、大きく分けて、バッタ・キリギリス・コオロギの3つのグループになるんだみぎしたさんしょう（右下参照）。バッタの仲間は昼間に動くものが多くて草食そうしょくさ。」

触覚は短いんだ。ところが、キリギリスやコオロギの仲間は、夜行性で肉食か雑食で、触角は長い。それに羽をこすり合わせて鳴く虫も多いね。」

花ちゃん 「ふーん。なるほど、よくわかりました。ところで、このクビキリギリスは？」

オー君 「体の色は緑色かかった色で、頭がとがたちょっと大きめのキリギリスだね。右の写真でもわかるように口の周りが赤いのが特徴だね。それで、『血吸い虫』とも呼ばれることもあるんだよ。」



花ちゃん 「本当に赤い感じですね。」

オー君 「顔をよーく見ると、だれかに似ているような気がするんだけど、花ちゃんはどう思う。」

花ちゃん 「そうね……。あまり思いうかばないわ……。だれかって、だれですか。」

オー君 「ぼくには、ゲゲゲの鬼太郎に出てくる『ねずみ男』に見えるんだ。口紅をした『ねずみ男』だね。」

花ちゃん 「なるほど。そう言われればそんな感じもしますね。ところで、このクビキリギリスはどこにでもいるバッタなのですか。」

オー君 「そうだね。どこにでもいるけど、今は冬だからあまり目立たないかもね。でも、こいつをつかまえる時には気をつけるんだよ。すごいあごをもっていて、指にかみつくと、ちょっとやそっとでは離さないんだ。」

花ちゃん 「それじゃいたいでしょうね。」

オー君 「ただいだけじゃないんだ。無理にひっぱると首がぬけてしまうこともあるんだ。それで、クビキリギリスという名前がついたと言われているのさ。」

俺の仲間でピンクの体色の変わった奴がいるそうだ。普通、バッタの体色は生まれた環境で決まる。湿り気のある草場で生まれた固体は緑色、乾燥した草場で生まれた固体は茶褐色になる。乾燥した場所は、枯葉の混ざる率が高く緑色だと目立ちすぎて外敵に襲われやすくなるので、防衛手段として、体色変化が起こるそうだよ。ところで、ピンクの奴はどんな環境で生まれたんだろうな？俺も知りたいよ。



※バッタについては、『国立てくてく3』のNO42にくわしくあります。

※バッタの仲間・・・ショウリョウバッタ、イナゴ、トノサマバッタなど。キリギリスの仲間・・・ツクムシ、ササキリ、クツワムシなど。コオロギの仲間・・・コオロギ、マツムシ、スズムシなど。